

令和7年度全国学力・学習状況調査

< 壱岐市の結果の概要 >

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施対象

- 小学校調査・・・小学校第6学年
- 中学校調査・・・中学校第3学年

3 調査内容

- (1) 教科に関する調査・・・小学校調査：国語、算数、理科
・・・中学校調査：国語、数学、理科

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

4 調査期日

令和7年4月17日（木）

（中学校理科は令和7年4月14日（月）から4月17日（木）までの間）

5 結果の概要

- (1) 教科に関する調査

校種	教科	状況	成果・課題（成果は○、課題は●）
小学校	国語	・全国の平均正答率を下回っている。	○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。 ○ 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ● 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ● 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること。

	算数	・全国の平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること。 ○ 小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えること。 ● 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述すること。 ● 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること。
	理科	・全国の平均正答率と同程度である。	<ul style="list-style-type: none"> ○ レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。 ○ 氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解すること。 ● 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現すること。 ● 「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現すること。

校種	教科	状況	成果・課題（成果は○、課題は●）
中学校	国語	・全国の平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること。 ○ 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を捉える。 ● 文脈に即して漢字を正しく使うこと。 ● 自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫すること。
	数学	・全国の平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 素数の意味を理解すること。 ○ 必ず起こる事柄の確率について理解すること。 ● 説明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすこと。 ● 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善すること。

	理科	・全国の平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水の中の生物を観察する場面において、生命を維持する動きに関する知識。 ○ 気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、探究の過程の見通しについて分析して解釈すること。 ● 元素記号で表すことに関する知識及び技能。 ● これまでに学習した理科の知識及び技能を基にした、化学変化の分解の知識。
--	----	-------------------	---

(2) 児童生徒質問紙に関する結果

壱岐市の児童生徒の傾向	
○	「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒の割合が、全国平均を上回っている。
○	「授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる」や「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と回答した児童生徒の割合は、令和6年度に引き続き全国平均を上回っている。
○	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、令和6年度に引き続き全国平均を上回っている。
●	「授業でPCタブレットなどのICT機器を使用している」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国平均より上回っているが、中学校は全国平均を下回っている。
●	「授業以外に1時間以上(中学校は2時間以上)の学習をしている(月～金)」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均を下回っている。